

【異学年交流に基づく豊かな心の育成について】

1年生から9年生（中学3年生）までが在籍する小中一貫教育校の特色を生かし、入学式、卒業式、運動会、桜祭（音楽会）など、多くの教育活動において異学年交流活動を原則とし、積極的に取り組んでいます。児童・生徒は最高学年の9年生を学校のリーダー像とし、豊かな交流活動を通して上級生の立ち振る舞いから自分の理想像を構築し、自らを成長させていきます。こうした環境が和やかな校風を生み、児童・生徒の人間関係が豊かになり、優しく豊かな心の育成につながっています。



1年生と7年生の入学式

【校内研究について】

＜研究主題＞ 小中一貫教育校の特色を生かして、自律的、協働的な学びを育む授業の創造

～発達段階、教科の特性を踏まえたエデュスクラムの活用を通して～

本校では毎年、小学部と中学部の教員が協働して授業をつくることを柱に据えて研究に取り組んでいます。今年度は、自律的、協働的な学びを充実させるために、教科を越えて授業改善の視点を共有できるよう、エデュスクラムという学習方法を活用した授業づくりを研究の中心にしています。

エデュスクラムは、課題解決型の学習場面でチームごとに学習の計画表を共有し、ゴールに向かって自分の学習に取り組むつつ、友達と協力しながら学習を進めるための学習方法です。各教科の特性や、児童・生徒の発達段階に応じてエデュスクラムを活用し、自律的、協働的な学びを実現するための研究を積み重ねています。



授業検討の様子



チーム学習の一場面

小中一貫教育に関するQ&A

Q1 小中一貫教育を実践している小学校に入学すると、小中一貫教育グループの中学校に進学しなければならないのですか。

A1 通学区域の指定や学校選択制の利用により、小中一貫教育グループ以外の中学校にも進学することができます。

Q2 どの小中一貫教育グループでも同じような小中一貫教育を行うのでしょうか。

A2 それぞれの小中一貫教育グループが、中学校区の特色や実態、課題を踏まえた学習指導の改善や生活指導の充実を図っており、一律の取組を行っているわけではありません。

Q3 1つの小学校からいろいろな中学校へ進学する状況で、どのように小中一貫教育に取り組むのですか。

A3 中学校1校と近隣の小学校1～3校で取組を進めています。各グループが実態に応じて「目指す15歳の姿」を設定し、その実現に向けた教育活動を行っています。また、知的障害特別支援学級では、設置校を4グループに分けて研究や実践をしています。

Q4 同じ中学校へ進学するのに同じ小中一貫教育グループの小学校から進学する子供とそうでない小学校から進学する子供がいると、学習状況に差が生じてしまうのではないですか。

A4 各小学校の状況に応じた取組が行われますが、学習指導要領に準拠して小中一貫教育を進めますので、学習内容や進度に差は生じません。

令和4年度 **ねりまの**

小中一貫教育



中学校教員による小学生への授業



小学生の中学校訪問



オンラインを活用した小中の交流



連携指導による

部活動体験

授業改善による

学力・体力の向上

滑らかな接続による

豊かな人間性・社会性の育成

安定した学校生活

練馬区の小中一貫教育校、全小・中学校では、小中一貫教育グループごとに「目指す15歳の姿」を設定し、小中一貫教育の充実に努めています。

今年度は、9年間の教育活動を系統的に整理した「小中一貫教育の取組プログラム」の作成に向けて、実践・検証を行い、意図的・計画的な指導の充実を図っています。

令和5年1月

練馬区教育委員会

小中一貫教育の取組事例

各グループでは、小学校と中学校の教員が連携し、「目指す15歳の姿」に向けた9年間の系統的な教育活動を実践しています。その一部をご紹介します。

9年間を見通した 系統的なICT教育の取組

開進第四中学校グループ (開進第四中・開進第四小・仲町小)

<目指す15歳の姿>

- 考えを表現する能力を身に付ける生徒
- リーダーシップや人間関係を構築する力を身に付ける生徒
- 正しい情報モラルを身に付け、効果的なICT活用能力を身に付ける生徒

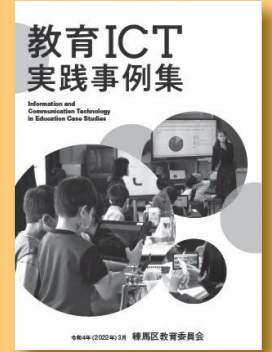
練馬区教育委員会作成の「教育ICT実践事例集」で紹介されている「情報活用能力#練馬区モデル」に基づき、小中9年間を通して系統的なICT教育に取り組んでいます。基本的な操作やソフトを活用した情報の整理や表現活動、目的に応じたプログラム制作、正しい情報モラルを身に付ける学習などに段階的に取り組めるように計画し、ICTを効果的に活用して、考えを表現できるようにしています。

学年	ICT教育の内容
小学校 1・2年	○機器、ソフトの基本的な操作を身に付ける。 ● タブレット端末の起動 ● ミライシードのオクリンクで、ペンを使った文字打ち ● 写真撮影、ファイル保存 ● Viscuit などソフトを使ったプログラミングの基礎
小学校 3・4年	○教員の指示で、文書作成やプレゼンテーション、情報共有などができるソフトを活用して自分の考えを表現する。 ● ドキュメント ● スプレッドシート ● スライド ● Jamboard など
小学校 5・6年	○前学年までに学んだソフト等の機能を目的に応じて選択し、操作する。
中学校 1～3年	○目的に応じて情報を適切かつ多角的に整理する。 ○問題解決のための安全・適切なプログラムを制作する。

小中9年間を見通したICT教育の内容



ICTを活用したプログラミングの授業



学校の魅力を紹介し合う小中合同の児童会・生徒会オンラインサミット

コミュニケーション能力を高め、 自らの生き方を考える力を育てる取組

豊玉第二中学校グループ (豊玉第二中・豊玉第二小・豊玉東小)

<目指す15歳の姿>

コミュニケーション能力を高め、主体的に自らの生き方について考え、社会に貢献することができる児童・生徒

「目指す15歳の姿」の実現を目標に、「コミュニケーション能力の充実」と「自らの生き方を考える力の育成」を柱として、9年間を見通した「小中一貫教育の取組プログラム」を作成し、授業改善や児童・生徒の交流を進めています。

三校合同の研究会では、自他の考えやよさを認め合う場面を取り入れた公開授業と研究協議を行い、互いを尊重し豊かなコミュニケーションを図る児童・生徒の育成を目指しています。

小学校5・6年生が中学校生活の一日を体験する取組では、中学校教員の授業を受けるだけでなく、給食を食べたり、休み時間に校庭で遊んだりします。9月には、6年生の部活動体験入部を実施しました。中学生が小学生に声をかけ、一緒に練習したり、アドバイスをしたりするなど、相互に関わり合い主体的にコミュニケーションをとる姿が見られています。

「柱」となる テーマ	コミュニケーション能力の 充実	自らの生き方を考える力の 育成
小学校 1・2年	自分の思いや考えをもち、発表することができる。	自分のよさに気付き、友人のために手伝いや仕事をすすんで行うことができる。
小学校 3・4年	自分の思いや考えを伝え合うことができる。	自分の得意なことを頑張り、めあてを決めて自分でやり抜くことができる。
小学校 5・6年	自分や他人の意見を大切に、よりよいものを創りあげようとするができる。	自分の将来に関心を持ち、全体を考えて行動することができる。
中学校 1～3年	自他の意見や考えを尊重し、よりよい問題解決を図ることができる。	主体的に自分の進路を選択し、「自分探し」を実現することができる。

小中一貫教育の取組プログラム



中学校教員の授業を体験



中学校の校庭で遊ぶ小学生



部活動体験



小中の教員による研究協議

教育課題研究 指定校の取組

光が丘第二中学校グループ (光が丘第二中・光が丘春の風小)

<目指す15歳の姿>

- 自分で課題を見付け、自分で考え、解決していく人
- 自分の考えを言葉などで表現し、伝えられる人
- 思いやりの心を言葉や行動で相手に伝えられる人
- 自分から元気にあいさつできる人
- かけがえのない自分を大切にできる人
- 夢や希望をもってチャレンジしていく人

研究発表会
令和5年
2月17日(金)

光が丘第二中と光が丘春の風小は、練馬区教育委員会教育課題研究指定校として、令和3・4年度の2年間、小中一貫教育の取組について「特別活動」「道徳教育」「特別支援教育」の3つの視点から研究を進めています。

児童・生徒が学級会で話し合い、決まったことを実践していく一連の交流活動(特別活動)、小中9年間を通して豊かな心を育むための道徳の授業の工夫(道徳教育)、障害のある児童・生徒の特性を教員が疑似体験する中で理解したことに基づく授業改善(特別支援教育)などに、両校で共に取り組んでいます。



学級会で決まった交流活動の実践
中学校3年生と小学校1年生の遊びを通じた交流会



小中の教員による研究協議